

文科省 不登校対策 担当者様

不登校対策について要請

今国会では、当事者、親たちの慎重論議、反対の意見が多くある中、不登校対策法案—教育の機会の確保に関する法律案—が検討されました。

文科省は今まで、不登校政策を続けていますが、不登校の子どもたちは減少していません。さらに多くの子どもたちが、学校に行けなくなり、苦しんでいます。

このようなことから、今まで、文科省が行ってきた不登校対策は、不登校をなくしていく方向にはなっていません。かえって、状況を悪いものにしていきます。今までの不登校対策を見直し、子どもの立場にたった対策を行ってください。

「どの子にも不登校は起こりえる」とされ、子どもの問題ではないのに、行かない原因を子どもに求めることはやめてください。子どもたちが苦しみ、命までけずる学校の体制こそ見直す必要があります。不登校になった子どもたちの多くは、学校に楽しく行きたかったけれど行けなかった子どもたちです。学校をいろいろな子どもたちが共に生きる多様性のある場所にしてください。

このようなことから、以下、文科省の不登校対策について伺いたいので、書面での回答と要請の場を希望しますので、よろしくお願ひします。

- 1、教育機会確保法案は、今国会では、継続審議になりましたが、不登校の子どもたちにだけでなく、すべての子どもたちに、関わるものです。法案にあるような「適切」という言葉で、排除され、子どもをさらに追い詰めるものです。このようなことから、法案の廃止を求めます。文科省の調査結果などにもあるように不登校は、「どの子にも起こりえること」です。そのように原因は、子どもではないのに、行けない子どもに原因が求められ、個人の責任にされています。このことについての文科省の考えをお答えください。
- 2、今、子どもたちの不登校、自殺が増加する中で、子どもたちが命にかかわることがないよう学校を休めることが緊急の課題です。不利益を受けずに安心して休めるということが、大切です。文科省として、もっと積極的に（たとえば、直接大臣が声明を出したり、マスコミで伝えたりするなど）休んでよいのだということを発信することが必要だと思ひますが、それについての考えをお答え下さい。
- 3、不登校などの子どもたちの多くは、ゆっくり休んでいれば、また、元気になってい

きます。けれど、学校から、医療機関を紹介され、薬を処方されるケースが多くなっています。成長期の脳に与える影響は計り知れません。薬の副作用で、重症化し、入退院を繰り返している子どもも身近に多くなりました。不登校は、病気ではありません。子どもの命に係わる大切なことなので、文科省から、学校が、子どもを医療機関に送るようなことはしない方向にしてください。これについての文科省の考えをお答えください。

- 4、今の日本の教育は、国連子ども権利委員会からの勧告もあるように、競争教育が激化し、子どもに多くの被害を与えています。3度の勧告にも関わらず、現状は、ますます厳しくなり、改善されていません。

(以下勧告内容・2010年国連子どもの権利委員会の日本政府に対する所見より引用)
「学校及び大学への入学をもとめて競争する子どもの人数が減少しているにも関わらず、過度の競争に関する苦情の声が上がり続けていることに懸念と共に留意する。委員会は、また、このような高度に競争的な学校環境が就学年齢層の子どものいじめ、精神障がい、不登校、中途退学および自殺を助長している可能性があることを懸念している。

締約国が、子ども同士のいじめと闘う努力を強化し、かつそのような措置の策定に子どもたちの意見を取り入れるよう勧告する」とあります。

このことについて文科省の考えをお答えください。

- 5、不登校の問題は、学校の体制に原因があります。教員も削減され多忙な状況になり、子どもたちに関わる時間がありません。いろいろな子どもたちが共に生活できる学校になるよう、先進諸国並みの少人数クラスの実現、教員定数を増やすことを早急におこなってください。子どもの貧困が急速に進む中、先進諸国で最低の教育予算を増やし、誰もが、無償で教育を受けられるようにしてください。

現在、それを、文科省では、どのように、考え、進めているのかをお答えください。

2016年5月26日

NPO 法人 子どもと共に歩むフリースペースたんぽぽ

理事長 青島 美千代

フリースペースひまわり 小川裕子

<連絡先> NPO 法人 子どもと共に歩むフリースペースたんぽぽ (担当 青島)

TEL 045-834-7970 FAX 045-834-7918

E メール info@freespace-tanpopo.com